

〈要約〉

「生きる力」とは何か—新教育課程を考える—

How does the school change from the new education course?

秋山智美
Satomi Akiyama

知識基盤社会の到来、グローバル化の加速化等の中、新教育課程においても「生きる力」は継承されているが、この「生きる力」とは何か、それが提唱された背景に触れながら、今、授業がどのように変わる必要があるかについて論じる。

「生きる力」というキーワードについて最近の教育現場ではよく耳にする。昨今の教育現場では『「生きる力」を養う』ことが大きな目標とされている。「生きる力」とは、変化の激しい社会において、いかなる場面でも他人と協調しつつ自律的に社会生活を送れるようになるために必要な、人間としての実践的な力であり、豊かな人間性を重要な要素とするものである。「生きる力」の核となる豊かな人間性とは美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性、正義感や公正さを重んじる心、生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観、他人を思いやる心や社会貢献の精神、自立心・自己抑制力・責任感、他者との共生や異質なものへの寛容、などが挙げられる。有菌(2006)では、このような人間性を養うためには、基盤として、子ども達同士の好ましい人間関係や教師との間の信頼関係、雰囲気の良い学級などが求められるとしている。そのような環境を築くときに、子ども達の「生きる力」が不可欠になってくる。「生きる力」を養うために必要なことは何か、それを考えたときに、道徳が大きく関係してくる。豊かな人間性や社会性とは、人間として、また、社会の一員として主体的に生きるための基本となる資質や能力であり、これは豊かな道徳性を意味している。教師は、実際の体験活動をできるだけ子どもに体験させ、その中から子ども自身が学べるような環境や場面を与えることが大切である。また、家庭や地域などの協力を得て、開かれた教育を行うことができるように、努力をしなければいけない。「生きる力」を養うためには、教師は多くの努力が必要となってくるだろう。